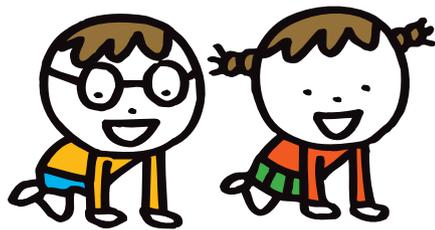


げんし
〈原始〉

すみよし
住吉は、
こめ
米づくりと漁業の
むら
ムラだった



すみよし
住吉区ゆかりの
キャラクター 2
のうみん
農民



せん ひゃくねんまえ やまのうち ちょうめ いったい はたけ た
2千5百年前には、山之内4丁目の一帯に畑や田
のうさくもつ つく
んぼで農作物を作って暮らすムラができました。
いえ じめん まる ほ ど ま う え や ね
家は地面を丸く掘って土間にして、その上に屋根
を伏せたような形の竪穴住居でした。床の真ん中
りょうり つく ひど た ろる まわ
に料理を作るために火を焚く炉があり、その周り
かぞく みんな しょくじ をしたり、今日一日の話をし
ていたことでしょう。とうじ、ムラのすぐ西側は海
だだったので、大阪湾でとれるイイダコを取るため
のたこ づぼ しゅつど
のタコ壺も出土しています。食事のおかずにはタ
コや魚などの料理が多かったにちがいありません。

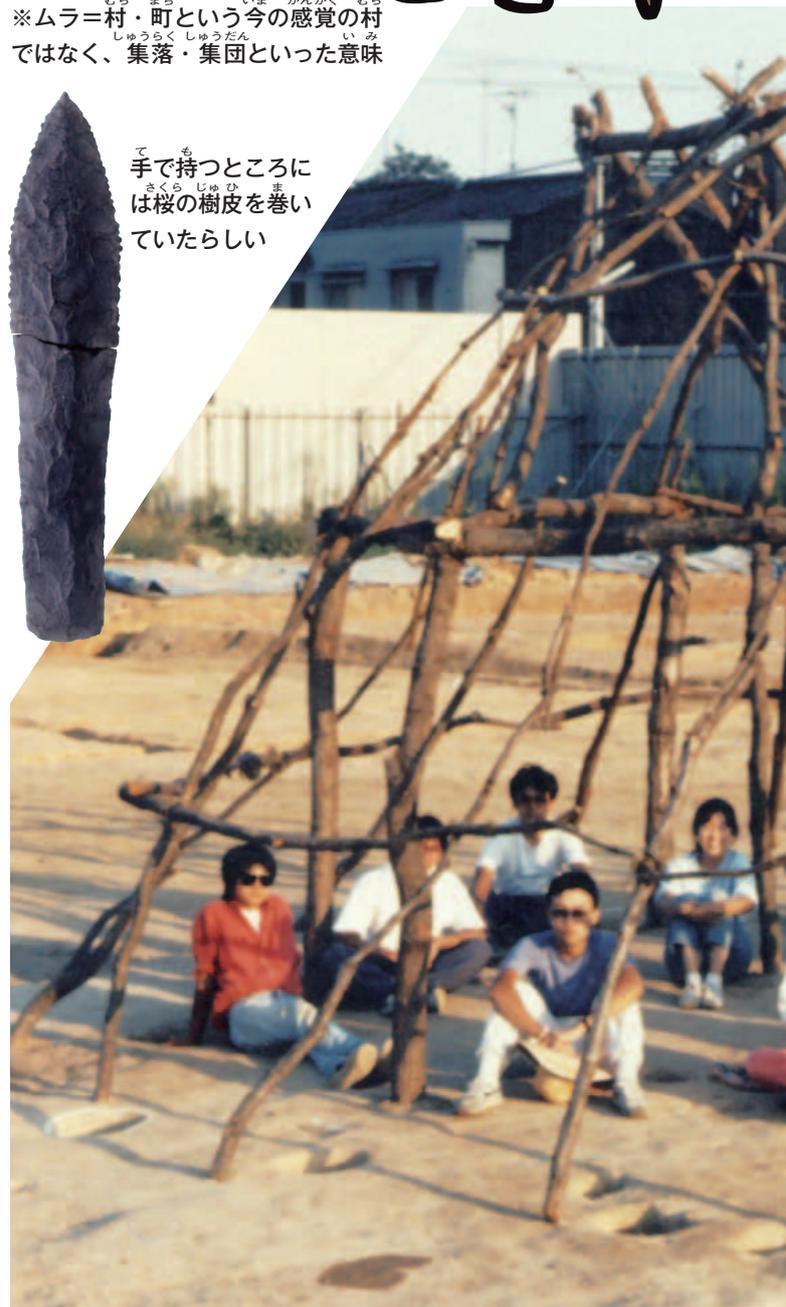
また、弓の矢の先につける石の鏃や槍先・剣な
どの武器となる石器をさかんに作っていたよう
で、つくりかけの石器やかけらがたくさん出土し
ています。このムラの人たちは石の武器を持つこ
とが必要だったようです。

このムラのすぐ近くにはお墓もつくられていま
した。溝で四角く囲まれた中にお棺を埋め、溝の
中には葬式で使った土器が置かれていました。同
じようなお墓はJR阪和線東側の大阪市立大学グ
ラウンドでも見つかっています。ムラは弥生時代
の後半にあたるせん ひゃくねん まえ すがた け
の後半にあたる1千9百年ほど前に姿を消してい
ます。ムラ人たちがどこへ行ったのか、それはい
まだに謎です。

むら まち いま かんかく むら
※ムラ=村・町という今の感覚の村
ではなく、集落・集団といった意味



ても
手で持つところに
はさくらしゅひ
は桜の樹皮を巻
ていたらしい



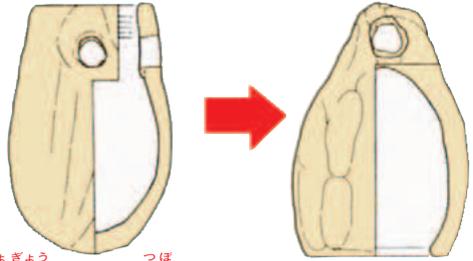
すみよく
住吉区ゆかりの
キャラクター 3
漁師



やまのうちに遺跡の壁穴
住居跡。柱を立てて
住居の骨組みを復元



つぼ おもり さか おこな
タコ壺と網につける錘。漁が盛んに行われた



あみぎよぎょう つぼ 網漁業とタコ壺

弥生時代から奈良時代にかけて住吉区の遺跡からは漁業につかわれる道具が多く出土します。土製の錘は古墳時代から多く出土するようになります。直径4.5cmほどの筒形をしており、曳き網のロープの部分につけられます。こうした曳き網漁は何艘もの船で力を合わせて行います。ひとりで漁をしていた時代から、多くの人たちが共同で漁をするようになったのです。また、弥生時代からイダコを捕るタコ壺が見つっています。弥生時代のタコ壺はコップ形で口のところに紐を通す穴が一つ開いています。古墳時代になると紐を通すところが底に付けられた釣鐘形に変わります。この形のタコ壺は現在も使われています。

やよいじだい ほかにほつけん ぼしよ
弥生時代のムラや墓が発見された場所

